

香柏会講演会

紺野美沙子 さんを迎えて

『自分らしく生きる』

～母として女優として国連大使として～

今回は女優の紺野美沙子さんをお迎えしました。デビュー当時と変わらぬ清楚なお美しさに会場は一瞬にして魅了されました♡



母として

この春、一人息子が高校を卒業し大学生になった今、空の巣症候群状態なんです。仕事でも、子育てでも「自分が必要とされている存在である」と確認できることで、生きるエネルギーが生まれ、元気が出てくることを実感しているんです。

一番大切なことは、不安が少なく、心穏やかにいられる場所があること。そして、自分を必要としてくれる人がいることだと思います。

中高時代は、子育ての集大成の時！

保護者としての時間をたっぷり楽しんでくださいね。

女優として

そもそも女優になりたいと思ったのは、小学校5年の時です。朗読が好きで演劇部に入ったのだけれど、顧問の先生がとにかく厳しかったんです。でも演劇を愛する先生から本気の指導を受けられたことは幸せなことでした。

そのことが女優を目指すきっかけとなり、その後、ユニチカのマスコットガール、朝ドラ「虹を織る」などを経て現在にいたっています。

当時は20代のうちに結婚して女優を引退しようと思っていましたが、29歳の時、大学の後輩から声をかけられて、エッセイを書くことになりました。

エッセイを書くというのは、自分で自分にインタビューする作業です。

自分に向き合うことができ、自分にはいいところもあるけれど、「そんなすべてが自分なんだ」と思うようになりました。

「自分が、その自分の応援団になってあげないと誰がなるのか？」と思い、好きなことを仕事にしている自分を幸せだと思えるようになりました。



国連開発計画親善大使(UNDP)として

16年前、当時の総裁から「紺野さんを通して、若い人たちに国連の仕事を伝えてほしい」と言われ、引き受けました。

親善大使は、世界中で10人で、今ノルウェーのホーコン皇太子やシャラボア(テニス)、ロナウド(サッカー)などで、それぞれの人がそれぞれの立場でできることをしています。

私は、数年に一度 UNDPが援助している途上国を訪問し、その様子を日本の子供たちに伝えています。

世界には、貧しさの連鎖の中にいる子供たちもいます。

日本の子供たちが恵まれていること、全世界の子供たちに初等教育が必要であることを、押しつけがましくならないよう伝えることで、将来、国際協力のすそ野が広がってくればいいな、と思っています。

まとめ

それぞれの人が、それぞれの立場でできることをして、限りある自分の時間の一部を他人のために使うことが大切だと思います。

私たち一人ひとりが心穏やかに笑顔でいることができれば、世界の平和にもつながりますよね。

まずは自分が笑顔になり、そして、まわりも笑顔にしていきましょう。



耳より情報

♡お誕生日は、聖母マリアと同じです！
♡尊敬する人は美智子皇后。話すお言葉やご公務の姿が素敵！

♡な～んにでも話しかけちゃう気さくな美沙子さん…。
ワンちゃんのコハルちゃんはもちろん、なんと！
ぬか漬けにも「おいしく育てよ～」と話しかけるそうです。

